

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリーム学園		
○保護者評価実施期間	2025年12月2日		～ 2025年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 12月1日		～ 2025年12月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・いつもの友だちと一緒に、毎日安心して活動を楽しむことで、発達全般の土台となる力を育むことができる。	・見通しがつく活動を設定している。 ・わかりやすい環境づくりをこころがけている。 ・友だちとの関わりを意識しやすいグループづくりや活動を設定している。	・クラス間交流や近隣の保育園等との交流の機会を増やす。
2	・職員同士の連携を重視し、療育にあたっている。 ・園内研修を実施し、よりよい療育を目指している。	・毎日全体やクラスで情報共有する時間を設けている。 ・職員の意見で内容を決めている園内研修も実施している。	・引き続き職員同士が話しやすい環境づくりや学び合う場を大切にしていく。
3	・施設が新しくなり、感覚統合室「わくわく」が活用できるようになった。また、近隣に同世代の子どもが遊ぶ場や図書館等があるなど周辺環境が充実している。 ・複合施設への移転により、児童発達支援センター内や関係部署との連携がしやすくなった。	・「わくわく」の部屋では、作業療法士から、感覚統合の視点でのアドバイスを受け、子どもの姿に合わせた活動を組み立てている。 ・毎日、常に安全に注意しながら、公共の場を歩いたり公園で遊んだりする活動を取り入れている。 ・児童発達支援センター内での情報共有を密に行っている。	・同世代の子どもとの交流の場、交流の機会を増やしていく。 ・「わくわく」の部屋をより有効に活用できるようにしていく。 ・職員の感覚統合に対する理解を深めていく。 ・関係部署との連携をより深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・業務量に対応しきれないと感じることが多い。	・会議や記録、文書作成、行事等の企画立案に時間がかかりがちである。 ・人員配置と取り組みたい療育との折り合いがつけにくい。	・事前準備や目的を明確にする等、会議の進め方を工夫していく。 ・現環境でできる業務改善を継続実施していく。 ・時期や子どもの姿に合わせて支援方法の見直ししていく。
2	・同世代の子どもとの交流の機会が少ない。	・保育園等との連携関係に不足がある。 ・ドリームの療育時間と保育園等の生活の時間の折り合いがつけにくい。 ・保育園等との交流を経験している職員が少なくなっている。	・今年度の取り組みを土台に、より交流しやすい設定のレパートリーを増やし、実施していく。
3	・地域とのつながりが不足している。	・移転して1年たらずであり、地域とのつながりが十分ではない。	・引き続き、戸外活動中に地域にある施設として積極的に挨拶する。 ・地域の保育園等に「わくわく」の部屋を紹介し、開放する機会がつかれないか検討する。 ・「地域支援」「地域連携」についても模索していく。